

就農事例

梶原大介氏 (株式会社 さぬきの農)

(令和2年2月法人化)

調査日	令和2年12月(就農後7年目)
所在地	さぬき市鴨部
経営主	代表取締役 梶原大介
主要事業	水稻、麦、露地野菜
主要作目	水稻 コシヒカリ 1ha アキサカリ 9ha にこまる 6ha さぬきよいまい 1.5ha にじのきらめき(試作)
	麦 はだか麦 8.5ha さぬきの夢 12ha
	ブロッコリー 1ha
	キャベツ 10a
就農タイプ	新規就農(親元就農)
就農時期	平成26年
労働力	家族 3名 常時雇用 2名 臨時雇用 2名

ヒストリーあらすじ

・梶原氏はさぬき市の専業農家出身で、高校卒業後、県内の製造業に勤務。父の手伝いをしながら、農業に興味を持つ。父からわが家の農業経営について学び、周囲の減少していく農業従事者の実態をみることにより、農業の将来性を感じたことから平成26年に就農し、新規に麦を導入した。

・就農に当たり支援制度もあったが、早く自立するために支援には頼らなかった。資金を稼ぐために就農後2年間は必死で働き、農外所得も得た。また、予想していなかった米価の下落を受け、経営がうまくいかなかったが、サラリーマン時代に上司から学んだ「素早い切り替え」により、次の展開を考え、農地機構を通じて農地の拡大を図った。

・平成29年からドローンを導入し、水稻・麦の防除に活用することで、規模拡大後も良質な米や麦の出荷ができた。ドローン防除の受託も開始し、新たな経営の主軸となっている。令和元年に認定農業者となる。

・令和2年2月に法人化し、「株式会社さぬきの農」を設立し、2名を雇用した。人材の確保により、ブロッコリーの面積拡大を行うとともに、新たに契約栽培でキャベツも導入した。今後、さらに規模拡大を進め、経営の安定を図っていく。

エッセンス

●素早い切り替えによる対応

- ・サラリーマン時代に身に着けた「何かが生じた際の素早い切り替え」を武器に、就農してからの苦境を乗り越えた。
- ・中古でよい機械は中古で、新品でないといけぬ機械は新品で、用途に合わせた設備投資で初期投資を抑えた。

●設備の導入と規模拡大による展開

- ・農地機構を活用し、農地の拡大を図った。
- ・面積の拡大に応じて、設備等の導入を積極的に行った。
- ・ドローンを一早く導入し、防除作業の受託を開始した。

●法人化し、経営の安定を図る

- ・法人化し、2名の従業員を雇用したことで、さらなる規模拡大が目指せるようになった。
- ・顧問税理士を活用し、財務状況の把握と経営の安定化を目指す。
- ・労務管理等を充実させ、従業員の能力発揮につなげていく。
- ・農作業の集中化により、働き方改革を推進する。



水稻栽培に欠かせない田植え機
～必要な設備投資は行うべき！～



集約した農地で麦栽培



露地野菜にも取り組む



スマート農業の導入
～ドローンを活用した防除～

様々な作業に活用するトラクター
～麦播種中～



農作業体験も実施

梶原大介氏 ヒストリー

就農前	就農期 平成26年～	確立期 平成29年～	発展・将来展望 令和2年～
<p>●初めての就職先の上司から学んだキーポイント</p> <p>・何かが生じた際の重要なポイントは、「素早く切り替えること」</p> <p>社会に出て仕事をする責任と大変さを学んだ。 厳しくてもうらいついた時の努力が、就農し、事業主となってから身に染みて良かったと思えている。 就農時の苦労は当たり前にするべきことと感じている。</p>	<p>●平成26年に就農を決意</p> <p>・親元就農し、農地機構を通じて農地の拡大に努めた。 ・認定新規就農者に認定された。</p> <p>・就農に当たり支援もあるが、早く自立するためにも支援には頼らなかった。 ・先輩のテクニックを積極的に聞いて学んだ。</p>	<p>●いち早く、スマート農業に取り組む</p> <p>・早い時期からドローンを導入し、水稻・麦の防除に活用した。 ・規模拡大後も良質な米の生産に取り組めた。 ・ドローンによる防除作業の受託を開始した。</p> <p>・JAの事業や資金を活用し、ドローンを導入したことが、経営の安定にもつながった。 ・周囲に十分に配慮し、技術を積み重ね、品質の良い米を生産した実績により、ドローン防除の依頼が増加していった。</p>	<p>●株式会社さめきの農を設立</p> <p>・令和2年2月5日に法人化し、農地所有適格法人として認定農業者に認定された。 ・2名の常時雇用を開始した。 ・さらなる規模拡大を目指す。</p> <p>・法人化し、2名の従業員を雇用したことで、さらなる規模拡大が目指せるようになった。 ・作業を任せすることで、事業展開や経営について十分に考慮できるようになった。 ・雇用したことで生産計画も再考し、価格の安定も考慮し、新たに契約キャベツの生産に取り組むとともにブロッコリーも面積を増やして生産を再開した。 ・県単事業の活用や日本政策金融公庫等融資の活用も検討する。</p>
<p>●農業と会社の将来性について悩んだ</p> <p>・会社勤めに不安を感じ始めた。 ・父が行う農業経営をしっかりと見ることができた。</p>	<p>●必死で働いた2年間</p> <p>・米価の下落を予想しておらず、平成26～27年は経営が苦しかった。</p> <p>・経営を立て直し、資金をためることを目標に、農作業のない時間帯にはアルバイトを行うなど農外所得を得ながら寝る間を惜しんで努力した。</p>	<p>●認定農業者に認定</p> <p>・令和元年にさらなる農業経営の発展を目指し、認定農業者に認定された。 ・農地を21haまで拡大し、麦の生産拡大にも努めた。</p>	<p>●法人化したことで見えてきた新たな課題に取り組む</p> <p>・事業展開の見直しや設備投資に向けた取組みを考える。 ・財務状況の把握と安定化を図る。 ・農作業の集中化に取り組む、従業員の能力が最大限に発揮できる仕組みを構築し、働き方改革を推進する。</p>
<p>・農業に従事する人が減り、作付けしない水田が増えている状況を見て、農地を増やすことの可能性や農業の将来性を感じた。 ・父の関係からJAや機械メーカーの人と話をすることができ、農業に対する疑問についてヒントを得られた。 ・子供のころから父の栽培を手伝っていたことで、作業的には不安がなかった。</p>	<p>●初期投資を抑え、新規作物の導入にも取り組む</p> <p>・機械や倉庫の導入については、極力中古を探した。 ・新規に麦の生産に取り組んだ。</p> <p>・コンバインは新品にこだわったが、その他は中古を導入することで初期投資を抑えた。 ・先輩のテクニックを積極的に聞いて、自分の農業経営に生かした。</p>	<p>・経営が上向きになり、安定してきた。初期投資を抑えていたことが有利に働いてきたと実感した。 ・面積拡大に合わせ、臨時雇用を始めた。 ・農地の拡大に合わせて、トラクター、乾燥機、もみすり機を導入した。 ・ドローン防除の受託量が増加してきたことから、効率化や省力化を考えるようになった。 ・個人経営から法人経営への転換及び栽培品目の検討について考え始めた。</p>	<p>・野菜の生産を減らし、水稻、麦を拡大する。 ・適正な規模を把握する。(30ha) ・裁量労働制の導入を検討する。 ・年次決算から月次決算へ移行し、分析をこまめに行うために顧問弁護士を持つ。 ・内部留保の拡大と設備投資等への活用を考える。</p>

梶原大介氏〈課題と対応策〉

フェーズ	就農前	就農期 平成26年～	確定期 平成29年～	発展・将来展望 令和2年～	
主な出来事	<ul style="list-style-type: none"> ●初めての就職先の上司から、仕事をする上での考え方を学んだ。 ●何かが生じた際、素早く切り替えることの重要性を学んだ。 <li style="text-align: center;">⇩ ●会社勤めに不安を感じ始めた。 ●父親が水稻、ブロッコリー、アスパラガスで農業経営を行っており、我が家の農業経営について聞いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●農業に従事する人が減り、田が残っている状況を見て、農地を増やすことが可能ではないかと、農業に将来性があると感じ、本格的に農業に取り組み始めた。 ●認定新規就農者に認定された。 ●農業に従事するが、資金を稼ぐために2年間は必死で働き、農外所得も得た。 	<ul style="list-style-type: none"> ●経営が上向きになり(H29～)、安定した。 ●ブロッコリーの生産を休止(H30)。水稻・麦の生産に特化し、農地を21haまで拡大した。 ●ドローンを導入(H29)し、防除作業の受託を開始した。 ●米のフレコン出荷を開始した。 ●2018年3月に結婚し、翌年6月に家を新築した。 ●令和元年に認定農業者に認定された。 	<ul style="list-style-type: none"> ●法人化し、株式会社「さめぎの農」を設立(R2.2)した。 <li style="text-align: center;">〔 代表取締役 本人、役員 父 〕 ●妻が経営管理部門で参画した。 	
経営課題	ヒト・組織	<ul style="list-style-type: none"> ・父が経営(水稻7ha、ブロッコリー 50a、アスパラガス10a)しており、相談ができた。 ・機械メーカーとの相談が可能であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と父で農業経営に取り組む ・JAや機械メーカーにも相談 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人と父で農業経営に取り組む ・臨時雇用(3名)を開始。(5月～6月…田植え、盆～10月…収穫) 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人化 ・常時雇用を開始(2名)
	土地・設備	<ul style="list-style-type: none"> ・農地は親元就農であり、問題はなかった。 ・機械については父が持っている機械で対応できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地は、父が所有する50a及び借地 ・倉庫、乾燥機(40石)3台、もみすり機1台、コンバインの導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・農地借入拡大 ・トラクター(62ps)、乾燥機(50石)、もみすり機(5インチ)、田植え機(6条)の導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる規模拡大 24ha(R2)→30ha(適正面積と考えている) ・トラクター2台、汎用性コンバイン(収穫に精度が高い)の導入
	カネ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己資金 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己資金 ・JAのリース事業(アグリシード、1/3補助)を活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間銀行からの融資 	<ul style="list-style-type: none"> ・補助事業の活用 ・日本政策金融公庫やJAの融資を活用
	技術・ノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ・栽培技術についての知識習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・肥料や農業についての知識習得。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己研鑽しながら水稻、麦に特化していく。 ・契約キャベツの栽培についての知識習得
	販売・販路	<ul style="list-style-type: none"> ・父の出荷先であるJAを想定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA主体 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA、契約栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ・JA、契約栽培
	情報	<ul style="list-style-type: none"> ・父 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩農業者、JA、市、普及センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩農業者、JA、市、普及センター 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩農業者、JA、市、普及センター
	地域	<ul style="list-style-type: none"> ・さめぎ市鴨部地区(自宅周辺) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さめぎ市鴨部地区(自宅周辺) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さめぎ市鴨部地区(自宅周辺) 	<ul style="list-style-type: none"> ・さめぎ市鴨部地区(自宅周辺)
	具体的内容 (課題の内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・農業と会社の将来性を見比べていた。 ・農業技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術の習得 ・面積拡大(青年等就農計画では8ha) ・機械導入(初期投資を抑える) ・新規作物の導入 ・組織加入による仲間づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・ドローン防除の受託量が増加したことにより、効率化、省力化を考える。 ・水稻の新規品種の導入に試験的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人としての経営の安定を目指す。 ・裁量労働制の導入や労働に対する報酬の払い方等の労務管理の検討を行う。 ・働き方改革の一環で、農作業の集中化を考える。
対応策 (課題にどう対応したか)	<ul style="list-style-type: none"> ・子供のころから父の手伝いを行っており、父から依頼された作業については教わっていた。 ・導入する必要がある乾燥機については中古情報も含め機械メーカーとのやり取りを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・米価の下落を予想しておらず、H26～27年は経営が苦しく、経営改善のため規模拡大を計画し、農地機構を通じて積極的に農地を借りた。 ・新規作物として麦を導入。拡大を図った。 ・水稻は父、野菜やJA、麦は普及センターから知識を得た。 ・必要な機械等については、常に情報収集に努め、中古を探して導入した。 ・先輩のテクニクを積極的に聞いて学んだ。 ・就農に当たり支援もあるが、早く自立するためにも支援には頼らなかった。当初の2年間は苦労したが必要だったと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講習会で肥料や農業についての知識を習得 ・3年間、主に中古で導入するなど、固定費を抑えたことで所得確保しやすくなった。 ・面積の拡大に合わせて設備投資を実行。 ・個人経営から法人経営への転換を考える。 ・簿記は自分で記帳し、決算書で専門家から助言を受ける。 ・今後の機械等設備の導入に向けて準備金の積み立てを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時雇用により労働力が増え、ブロッコリー生産を再開、契約キャベツを導入した。 ・野菜の生産を減らし、水稻、麦を拡大することで作業の効率化や集中化を図る。 ・固定費が見えてきたことにより、内部留保の拡大と設備投資等への活用の検討を行う。 ・顧問税理士を持つことにより月次分析を行い、財務状況の把握と安定化を図る。 	
外部環境	※	※米価の下落	※	※	